

## 水の琴響く

森野 水琴

昨年の正月に、彼は宮中での歌会始の儀をテレビで見た。

「窓」というお題を詠んだ歌が披露される。「窓」という字が含まれていれば良  
く、「車窓」のように熟語にしてもよい。

一般から応募された歌から十名の入選者が選ばれ、歌会始の儀に出席する。  
またとない晴れ舞台である。羨望のまなざしで眺めながら彼は思った。

そうだ 松の間へ行こう

入選して皇居宮殿「松の間」で行われる歌会始の儀に出席しようというわけ  
ある。

歌会始の儀が終了すると翌年のお題「友」が発表され、九月三十日までに提出  
するようにとのことである。

彼は即日に詠んだのだが、毛筆で提出しなければならなかったため、二月から書道  
教室に通った。

練習の甲斐があつて、九月には提出できた。

入選者には十二月上旬に確認の電話があるらしい。

彼は待ち焦がれたが、連絡のないまま十二月下旬の発表になった。  
インターネットで報じられた入選者リストに彼の名前はなかった。

巡りあい 久方ぶりの 喜びに

妙なる調べ 友と聞くらむ

詠む歌は、悠久の彼方から届く調べ。水琴窟すいきんくつに響く水の琴。

今年の正月に彼は歌会始の儀をテレビで見た。

来年のお題「和」が発表された。訓読みで「和むなむ」や「和らぐやわらぐ」としても良い。

今回も即日に詠んで彼は毛筆の練習に励んでいる。九月上旬には提出したい  
と思っている。

九月一日に彼は応募作を宮内庁に郵送した。

昨年は十二月二十六日の朝刊で入選者の発表が報道された。インターネット  
で速報されたのは前日の夕刻であった。吉報を待ち焦がれる日々が続く。

入選者の確認の電話がこないまま十二月二十五日に入選者が発表された。年明け一月十九日に歌会始の儀がテレビ中継された。

このごろは 人の心も 和らぎて  
ともに遊ばむ 時のまにまに

平和な世の中になっていることを願って詠んだのだが、現状はほど遠い。

来年のお題「夢」が発表された。彼の好きなテーマである。  
早速詠んだ歌を毛筆で書く練習に彼は励む。

お題「夢」で、彼が最初に詠んだのは

時を越え 天にも届く 言の葉は  
晴れやかなりと 夢に見るらむ

入選して松の間で歌会始に出席できたら、どんなに晴れがましいだろうと夢に見ている様子を詠んだ。

しかし入選するということは、夢が叶うことであり、どうせ読み上げられるのを聴くのならば、もっと感動的にと詠んだのは

時を越え 天まで届け 言の葉よ  
睦月の美空 夢叶いたり

残念ながら今回も入選しなかったが、来年のお題は「明」。  
また秘密の特訓が始まる。

お題「明」で、彼は詠んだ。

薫る風 明けゆく空に 届けむと

—さもあてやかに 立ちのぼるかな

清書して提出する作品を選ぶ最終レッスンの日に、一枚書いて、彼は気づいてしまったのである。入選したいがばかりに、選者を意識しすぎていたということに。

誰のために詠んだのか、誰に読んでもらいたいのか、自問して書いた二枚めは見栄えの点で劣った。結局、一枚めを選んで提出した。

またしても落選したが、次回は心して練習しようと思う。

来年の お題は「旅」

彼はすぐに詠んだが、レッスンを受けながら、よりよく書きあげたいと思っている。